



日本消化器癌発生学会

NewsLetter

<http://www.j-sgc.org/>

2014 No.1

第25回日本消化器癌発生学会、 第8回国際消化器癌発生学会の 開催のご案内

「第25回日本消化器癌発生学会」、「第8回国際消化器癌発生学会」を来る2014年(平成26年)11月13日(木)、14日(金)の二日間にわたり、ホテル日航福岡にて開催させていただきます。本学会は私の前任の杉町圭蔵先生が発起人の一人として参加されており、研究会の発足当時より私どもの教室と深いかかわりがございます。福岡での開催は、平成2年に当教室の杉町圭蔵教授(当時)が第2回の研究会を主催させていただいて以来、23年ぶりとなります。また、今回は第8回の国際消化器癌発生会議を同時開催いたします。国際消化器癌発生会議は我が国からは第1回の田原榮一教授(当時広島大学医学部病理学第一講座)、第3回を上西紀夫教授(当時東京大学第三外科)が主宰されました。このような学会をお世話させていただきますこと名誉に感じますとともに、会員の皆様に心より感謝いたします。

第25回のテーマは「真理考究-Inquire into Scientific Integrity」とさせていただきます。「まことにすじみちをおもいはかり きわめる」という意味がございます。演題を募集いたしましたところ、200題を超える演題をいただきました。「真理考究」というテーマにふさわしい癌制圧の未来に繋がるレベルの高い演題ばかりです。本学会の特徴でもあります質の高いディスカッションが繰り広げられ、国際的にも高い成果がえられますことを大変楽しみにしております。

また、Christine Ann Iacobuzio-Donahue先生(Johns Hopkins Medical Institutions The Sol Goldman Pancreatic Cancer Research Center)、Stephan B Gruber先生(Norris Comprehensive Cancer Center, University of Southern California)、Curtis C. Harris先生(Laboratory of Human Carcinogenesis, Molecular Genetics & Carcinogenesis Section, National Cancer Institute)、Hiroshi Nakagawa先生(Cell Culture Core Division of Gastroenterology Department of Medicine Perelman School of Medicine University of Pennsylvania)、福井宣規先生(九州大学生体防御医学研究所、免疫遺伝学分野)、吉田 優先生(神戸大学 大学院医学研究科医学部病因病態解析学分野)の招聘を招待演者として予定して

おり、最先端の研究の成果をご発表いただけるものと期待しております。

さらには昨年、理事長直轄プロジェクトと銘打って行いました「Sphere biology」につきましても最新の研究の進捗状況をご発表いただく予定にしております。

今回も熱いディスカッションの合間、心癒すおもてなしを企画しております。一人でも多い会員の皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。



第25回日本消化器癌発生学会
会長 前原 喜彦
(九州大学 消化器・総合外科
教授)

目次

第25回日本消化器癌発生学会、 第8回国際消化器癌発生学会の開催のご案内	1
第24回日本消化器癌発生学会総会 報告	2
平成25年度日本消化器癌発生学会 理事会議事録	3~5
役員・評議員名簿	5~6
第44回胃外科・術後障害研究会のお知らせ/ 日本消化器癌発生学会ホームページご案内	7
編集後記	8

第24回日本消化器癌発生学会総会 報告

本総会を2013（平成25）年9月5日（木）、6日（金）に石川県立音楽堂で開催しました。金沢での総会の開催は1992年の第4回研究会（磨伊正義会長：金沢大学がん研究所外科）と2003年の第14回総会（三輪晃一会長：金沢大学がん局所制御学）に続いて3回目です。本学会の一貫した理念とこれまでのあゆみに立脚し、設立から四半世紀を目前に新たながん研究領域の開拓の契機になることを願って、本会の総意を「消化器がん制御への歩み」としました。「歩み」は棋界の「歩」にも通じます。がん研究にかぎらず、いまの医学研究における若手の待望に通じると考えます。また、本総会では若手とともに期待が高まっている女性研究者の皆さまも多数お迎えしました。

この総会は奇を衒わず、地道に企画、準備しました。今回の主題設定は、最近のがん起源細胞、がん微小環境、上皮－間葉転換、循環がん細胞、浸潤・転移、分子標的、薬剤耐性、ゲノム配列解析などの時流の課題ではなく、敢えて、がんのより根源的な生命活動や、より大局的ながん予防に焦点を当てました。また、がん研究の実学的指向の一つとして、がんの研究や医療開発に欠かせない発がん動物モデルも取り入れました。このため、一般口演も含めて演題が集まる心配しましたが、それも杞憂となったようです。全国の施設から質、量ともに高いレベルの研究を多数ご応募いただき、ありがたく思っています。

会期中には各種講演11題、シンポジウム18題、ワークショップ16題、主題関連企画18題、一般口演58題、合計で講演11題、研究報告110題の発表と討論が活発になされました。荒天にもかかわらず延べ参加者は登録180名、招待45名、一般参加はおおよそ80名で、皆さまから概ねご好評をいただきました。

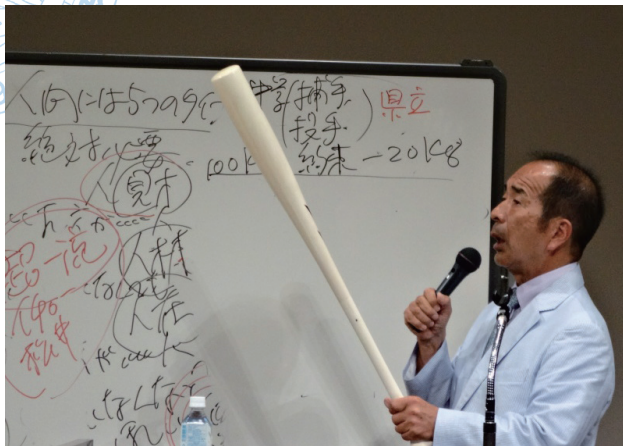
最近、各種の学術集会ではその活動の一環として社会貢献が求められています。本総会では最近、大きな社会問題となっている印刷業者の胆管がん多発事例についてワークショップと関連講演を企画し、最新の情報を討論



第24回総会運営メンバー



時局講演：神谷研二先生（広島大学／福島県立医科大学）



育成講演：山下智茂先生（稲置学園／星稜高等学校）

しました。この課題は一般の皆さまにご紹介する段階ではありませんが、社会的にもきわめて重要な課題として取りあげました。

本総会の学術プログラムのうち時局講演では、大きな社会問題となっている「福島原発事故と県民の健康管理」について第一人者の神谷研二先生（広島大学）が講演しました。また、本学会の目指す若手育成のため、2013年の国民栄誉賞受賞：松井秀喜氏を育てた稲置学園／星稜高等学校野球部名誉監督の山下智茂氏に育成講演をお願いしました。これらの内容はいずれも現在、社会で注目されている課題ですので、この一般公開プログラムをひろく県民の皆さまにお知らせしたいと願い、学術プログラムと併催しました。そして、総会参加者や一般参加者の皆さまから暖かいご評価をいただきました。

このように、本総会は、がん撲滅を目指す研究者の真摯な取り組みと学問に対する熱意が感じられる学術集会となりました。

第24回 日本消化器癌発生学会総会
会長 源 利成

平成25年度日本消化器癌発生学会理事会議事録

日時：平成25年9月4日（水）16：05～17：10

会場：石川県立音楽堂・3階「邦楽練習室」

出席者（敬称略）：（理事）前原喜彦、源利成、江角浩安

落合淳志、桑野博行、汐田剛史

島田光生、安井弥、吉田和弘

事務局幹事：清水伸幸、調 憲、野村幸世

オブザーバー：愛甲丞、森田勝

事務局：齋藤英司

委任状（敬称略）

理事：伊東文生、高後裕、菅野健太郎、馬場秀夫

平川弘聖、森正樹、北川雄光

監事：井藤久雄、平田公一

前原理事長が議長となり開会の挨拶を述べ、前回議事録の承認ののち、議事録署名人として桑野博行理事、島田光生理事を指名し、議事が進められた。

第1号議案 庶務報告

調事務局幹事より、会員の動向が次の通り報告された。

2012年11月から2013年8月までに入会54名、退会31名の増減があり、2013年8月20日現在の会員数は873名である。

第2号議案 役員選考委員会報告

桑野博行委員長より以下の報告があった。

①役員について

- ・定年により理事を退任される先生方について、上西紀夫理事は名誉理事長に、今井浩三理事、江角浩安理事、菅野健太郎理事は名誉会員に推挙し、引き続き本学会を支援していただくことが提案され、全会一致で承認された。
 - ・定年により評議員を退任される白水和雄評議員、松川正明評議員、松倉則夫評議員について特別会員に推挙し、引き続き本学会を支援していただくことが提案され、全会一致で承認された。
 - ・2015年の第26回総会の会長について鳥取大学の汐田剛史理事が推薦され、全会一致で承認された。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

②理事選考について

- ・平成21年度第3回理事会での「運用上理事定員を若干上回ることも許容される」との議決に基づき、太田哲生評議員（金沢大学）、掛地吉弘評議員（神戸大学）、篠村恭久評議員（札幌医科大学）、三森功士評議員（九州大学）が理事として推薦され、承認された。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

③理事長の選出について

- ・前原理事長以下全理事、監事が2年の任期満了を迎えるが、全理事、監事を再任することが承認された。
 - ・新理事長については、前原理事長の再選を役員選考委員会として提案したい。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

④評議員選考について

- ・新評議員として以下の42名が推薦され、承認された。
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 愛甲 丞 | 池上 徹 | 池田 哲夫 | 今西 達也 |
| 居村 暁 | 江見 泰徳 | 大段 秀樹 | 緒方 杏一 |
| 岡野 慎士 | 岡山 洋和 | 奥村 浩 | 小田 義直 |
| 神山 俊哉 | 川中 博文 | 楠本 哲也 | 鴻江 俊治 |
| 小寺 泰弘 | 齋藤 元伸 | 坂本 一博 | 佐々木欣郎 |
| 杉町 圭史 | 鈴木 拓 | 高橋 典彦 | 田中 成岳 |
| 寺島 雅典 | 能正 勝彦 | 橋本 大輔 | 馬場 祥史 |
| 檜井 孝夫 | 伏田 幸夫 | 前村 公成 | 松橋 延壽 |
| 宮下 知治 | 森根 裕二 | 守山 正胤 | 谷内田真一 |
| 山口 悟 | 山下 公大 | 横堀 武彦 | 吉田 優 |
| 吉永 敬士 | 米満 吉和 | | |
- 以上について審議を経て承認し、評議会、総会に諮ることとなった。

⑤その他

- ・委員会の構成について、担当理事と委員長の役割分担が明確でない点があり、理事、評議員の構成もここ数年で大きく変わっていることから、委員会のメンバーを大きく刷新したいと、前原理事長から提案があり、了承された。
 - ・事務局幹事について清水伸幸幹事が退任し、後任に愛甲丞先生が就任することが承認された。
 - ・様々な分野からの新評議員に積極的に学会運営に参加していただくため、理事会、評議員会で評議員の推薦をお願いしていくことが確認された。
 - ・評議員会への出席がなく、本学会での活動がない評議員が多くみられることから、来年以降、評議員会の出席をしっかりと確認し、欠席の場合は理由を明記することを義務付けることが提案され、全会一致で承認された。
 - ・所属先、転居先が不明となっている会員がかなりいることから、入会の際には評議員の推薦を義務付けではどうかとの提案があり、了承された。評議員に対してはその点での協力を呼び掛けていくことが確認された。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第3号議案 国際委員会報告

安井弥委員長より以下の報告があった。

・第7回国際消化器発癌学会はフィラデルフィア大学の Prof. Anil Rustgi 会長のもと、2013年11月14日、15日に開催されることが正式に決定した。ポスター発表の演題応募締切は11月8日になっているので、会員に広く参加を呼びかけたい。

・2014年の第8回国際消化器癌発生学会については、本学会の第25回総会と併せて前原理事長が会長となって日本で開催される予定である。前原理事長からは、学会総会においてもポスター、スライドは英語での作成を義務付け、本学会総会と国際学会を一体的に運営する予定であることが説明された。

・国際消化器癌発生学会の事務局業務は、田原榮一先生から前原理事長が引き継ぐことになったことが報告された。

・今後の国際学会の開催は、海外ではなかなか難しい事情があるようなので、3年に一度必ず日本で開催する形式に改めてはどうかという提案があり、引き続き検討することとなった。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第4号議案 研究推進委員会報告
安井弥委員長より以下の報告があった。

・G-Projectの成果報告について、胃癌・大腸癌それぞれ雑誌に投稿をしている。大腸癌については、Oncology ReportからAcceptの通知があった。基本投稿料、Color FigureのCharge、Print費用、Open Access Chargeなど、トータルの投稿料で2,250ユーロ（約30万円）がかかる見込みであり、研究推進委員会経費からの支出を予定している。胃癌については、Gastric Cancerに投稿し、結果待ちの状態である。

・胃癌、大腸癌の標本が数セット残っているので、有効に使用したい。

・前原理事長から、理事長直轄プロジェクトとして、毎年新たなテーマでの研究を始めたいとの提案があった。具体的な進め方としては、以下のとおりである。

▶学会での発表の中からテーマを決め、発表者に集まってもらって研究班を結成し、さらなる研究を進め、翌年の学会でさらに成果を発表してもらう。

▶初年度の研究テーマについては sphere biology としたい。

▶予算としては年間100万円を予定している。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第5号議案 学会賞選考委員会報告
安井弥委員長より以下の報告があった。

・大原賞、田原賞については、各委員による採点の結果を踏まえた前原理事長と安井委員長による協議の結果、大原賞受賞者を野村幸世先生（東京大学消化管外科）、

田原賞受賞者を塚本徹哉先生（藤田保健衛生大学病理診断科）に決定し、委員会、理事会の持回り審議で承認を得ている。

・研究奨励賞については、事前に持ち回りで行った採点の結果、応募のあった田中守先生（名古屋市立大学消化器・代謝内科学）、川俣太先生（北海道大学消化器外科学Ⅰ）、戸島剛男先生（九州大学消化器・総合外科学）、宮林弘至先生（東京大学消化器内科）、及能大輔先生（札幌医科大学外科学第一講座）、品川慶先生（広島大学病院内視鏡診療科）、中島雄一郎先生（広島赤十字・原爆病院外科）の7名全員を受賞者とし、委員会、理事会の持回り審議で承認を得ている。

・平成25年度要項をもとに作成された平成26年度要項が事務局より提出され、検討を行った結果、全会一致で承認した。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第6号議案 倫理問題検討委員会報告
吉田和弘委員長より以下の報告があった。

・学会役員及び各委員会委員長、倫理問題検討委員は平成24年1月1日から12月31日までの期間の利益相反自己申告書の提出が義務付けられ、全対象者から提出されていることが確認され、提出状況一覧表が回覧された。

・昨年度総会から、演題登録の際のCOI申告、スライドでのCOI表示が義務付けられたが、今年度についてはスライドでのCOI表示の義務付けが徹底されていないので、セッション開始時に座長から、COIについて口頭で説明するように求めることが確認された。

・指針では、発表の際に「利益相反状態がある場合に開示する」ようになっているが、「ない場合」にも当然開示すべきであることから、指針の該当部分を「利益相反状態の有無を開示する」と改めることが承認された。

・今後はCOI表示用の見本を学会HPからダウンロードできるようにするほか、総会事務局と学会事務局が連携をとって、COI表示を徹底するよう事務局に指示した。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第7号議案 財務委員会報告
島田光生委員長より以下の報告があった。

・平成24年度の決算について。

①バナー広告の収入は予算を下回ったものの、会費収入が予算を上回り、全体としてはほぼ予算通りの収入があった。

②G-project関係の支出が予算を下回り、支出の縮減につながった。

③それらの結果、繰越金の大幅な増加があった。

④これらについて、平田公一監事、井藤久雄監事より適正に執行されていることを確認したとの監査報告

書が提出されている。

・平成25年度の予算案について、平成24年度決算に基づいて、収入についてはほぼ同額を見込む一方、支出については理事長直轄プロジェクトを新たに開始する分も含めて、研究推進委員会費として計上しているが、財政的には安定している。

・配布した未納者リストを基に、各評議員から納入を呼びかけていただくよう、評議員会にて協力をお願いすることが確認されたが、未納会員の中に所属不明者がいることから、身許保証を求めるという意味で、入会申込フォームに推薦評議員を入力する欄を設けてはどうかとの提案があり、了承された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第8号議案 在り方委員会報告
夏越祥次委員長より以下の報告があった。

・会員数増加、評議員の増加により、学会が活性化してきている。

・理事長直轄プロジェクトの創設により、プログラムの充実が図られる見込みであり、今後は「代謝」「動物モデル」「予防」などのテーマを引き続き盛り込み、様々な分野の会員の取り込みを図っていきたい。

・学会発表スライド、ポスターの英語化を進め、より国際化を図っていくことが確認された。

・学会の法人化に向けて、ワーキンググループを作って検討を開始することとなった。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第9号議案 会則委員会報告
前原理事長より、今年度は会則委員会の開催がなかったことが報告された。

第10号議案 第23回学会総会（2012年）報告
第23回日本消化器癌発生学会総会は、平成24年11月15日から16日に徳島県鳴門市、ルネサンスリゾートナルトで開催され、盛況であった旨、島田理事より報告された。

第11号議案 第24回学会総会（2013年）報告
第24回日本消化器癌発生学会総会は、平成25年9月5日から6日に石川県金沢市石川県立音楽堂で開催される予定であることが源理事より報告された。

第12号議案 第25回学会総会（2014年）報告
第25回日本消化器癌発生学会総会は、平成26年11月14日から15日に8thISGCと合同開催で、ホテル日航福岡にて開催される旨、前原理事長より報告された。

第13号議案 第26回学会総会（2015年）報告
第26回日本消化器癌発生学会総会会長に汐田理事が推薦されたことが報告され、汐田理事より改めて挨拶があり、時期は検討中であるが、鳥取県米子市で開催される予定であることが報告された。

第14号議案 その他
なし。

以上

役員名簿											
2014年7月31日現在											
理事長 前原 喜彦				会長 前原 喜彦							
理事（25名）				次期会長							
伊東 文生		牛島 俊和		太田 哲生							
岡 正朗		落合 淳志		掛地 吉弘		監事（2名）					
北川 雄光		桑野 博行		高後 裕		井藤 久雄		平田 公一			
今野 弘之		汐田 剛史		篠村 恭久							
島田 光生		瀬戸 泰之		竹之下誠一		事務局幹事（3名）					
夏越 祥次		馬場 秀夫		平川 弘聖		調 憲		野村 幸世		愛甲 丞	
前原 喜彦		源 利成		三森 功士							
宮崎 耕治		森 正樹		安井 弥							
吉田 和弘											

編集後記

残暑厳しい中、2014年第一号の日本消化器癌発生学会News Letterを発行する運びとなりました。今回のNews Letterは主に、理事長でもあられます九州大学の前原喜彦先生の第25回日本消化器癌発生学会、第8回国際消化器癌発生学会開催のご案内と、私の国立がんセンター研究所の兄弟子であられます金沢大学の源利成先生の第24回日本消化器癌発生学会総会のご報告、それに平成25年度理事会議事録から構成されています。国際消化器癌発生学会は今回から、日本で開催される学会に合わせて、3年に一度は開催していく方向で検討中です。

先日、STAP細胞問題でお名前があがっておりました笹井芳樹先生の訃報が新聞をにぎわせました。世界的な頭脳の消失に社会の損失を強く感じました。何があったにしろ、このような優秀な頭脳を失うことは人類の大きな損失です。何が笹井先生を自殺にまで追い込んでしまったのでしょうか？ いろいろな要因はあると思いますが、私には、今だ、優秀な頭脳は最大限に活用していただいて社会の役に立ててもらおう、という公共の財産意識、自然科学への人類の共同による挑戦という公共の意識が日本社会には不足しているためではないかと思われま

す。アメリカ留学中にこのような意識の違いは痛感したものでした。優秀な才能はどんどん公共の利益に役立ててもらおうという後押しをアメリカ社会からは感じました。それに比べますと、日本の社会はまだまだ「村社会」的意識が強く、自分よりも優れていそうな人の足を引っ張ったり、自分と同グループの者ばかり優遇したり、何か社会的に失敗をした者を追いつめたり、という未開な社会のすることが見受けられるように思います。このような社会が笹井先生の頭脳を失うことになってしまった要因ではないのでしょうか？ 笹井先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

日本の科学の発展は目覚ましく、欧米にも劣らなくなっていると思われま

す。ただ、上記のような国民の意識改革は一朝一夕にできるものではないようです。そういう意味で、国際学会は外国の研究者と交流し、科学の叡智を交換するとともに、日本人科学者の意識改革にも大きく貢献するものと思われま

す。日本消化器癌発生学会、そして同時開催されます国際消化器癌発生学会は大きく期待されるものです。ぜひ、多くの方にご参加いただき、会員相互の才能を見だし、ともに歩んでいただきたいと思います。

事務局幹事 野村幸世 (東京大学消化管外科)

発行 日本消化器癌発生学会事務局
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15
UEDAビル6F
株式会社クバプロ内
TEL: 03-3238-1689 FAX: 03-3238-1837
発行者 日本消化器癌発生学会
編集 総務委員会
印刷 福々印刷株式会社